

東大総長×京大総長「タフな学生育てます」

# 東大総長×京大総長 「タフな学生 育ててます」 対決 対談

国難に臨み大学を変え人材を鍛えよ

松本 濱田先生とじっくり話すのは今日が初めてですね。楽しみにしながら東京に来ました。

昨年四月に先生が東大の総長に就任された時もお会いしましたが、なかなかゆっくりお話しできないので、今日は関西人同士いろいろな話をしたいですね。

濱田 東大と京大の総長は、いつもコミュニケーションをしっかりとっておくことが必要ですね。東の東大、西の京大とよく言われるように、歴史を

博士をはじめ、世界レベルの研究活動で日本をリードしてきた印象を抱いています。

松本 京大はどうも、人と違うことをやろうとする風潮が強いんですね。不思議なことに、京大は政治家や行政官を志望する学生は少ないんですね。

それよりも野に出て自分独自の特性を発揮したいと考えるようで、中小企業の社長は驚くほど多い。千人以上いると聞きました。「新しい風は京都から」という言葉は、今にも通じると思っています。

濱田 そうした意味で、東大と京大の組み合わせの「妙」がうまく生きていると感じます。

松本 海外の雑誌などでよく世界の大学ランキングが発表されます。先生はごらんになりますか。

濱田 どうでしょう(笑)。色々なランキングがありますが、東大が二十二位、京大が二十五位で、欧米の大学がずらっと上に並んでいるのを見たことがあります。

振り返ってみても、研究実績の面でも人材育成の面でも、近代日本において両校が果たしてきた役割は非常に大きかったと思います。

松本 そうですね。しかし実は、両校が作られた経緯はまったく違いますね。明治十年に創設された東大は、官吏養成機関としての色が濃かった。しかしその後、政治家や知識人が欧米に行ってみたら、研究や開発を主とする大学があることに気付き、リーダーシップだけで国は動かない、研究を重点

ただ、外国人教員の数や留学生の量などは、必ずしも評価の本質ではないと思います。むしろ論文の引用数などが、大学の實力をよく表しています。論文の引用数などで評価したら、そのうち東大は京大に逆転されるのではないのでしょうか。

松本 いやいや(笑)。ただ、研究や教育という大学の本質で評価をすれば、東大も京大も間違いなく世界のトップテンに入ります。しかしこのレベルを維持するためには、さらに先に進まなくてはなりません。

濱田 そのため何が必要か、ということですね。今日はそこを、徹底的に論じたいと思います。

## 科学技術がなぜ大切か

松本 我々は危機という認識を共有していますが、昨年行われた事業仕分けでは、科学技術・学術関連予算が、削減や凍結と判断されました。

野依(良治)さんなどノーベル賞受

的に行う教育機関を作ろうと、二十年后に作られたのが京大です。

濱田 ええ。東大は官僚を生み出す一方で、経済や文芸のリーダーはもろろん、市民運動に肩入れして新しい社会の論理を生み出すような先生もいました。そうした様々な分野で国のヴィジョン形成に東大が寄与してきた自負があり、今後も果たすべき責任の一つと考えています。

私から見ると、京都大学は日本人で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹賞者たちも「将来歴史の法廷に立つ覚悟はあるのか」と強い口調で会話を開きましたし、危機感を覚えた私たちは、濱田先生をはじめとする国立・私立九大学の学長で、共同声明を出しました。

声明の中で私は「国家存亡の危機」と表現しましたが、これは大げさでもなんでもありません。もともと日本は、石油や工業用原材料などといった資源がない国です。しかしすぐれた学術や科学技術を生み出すことで、世界にアピールし、世界第二位の経済大国にまで上り詰めた。その科学技術を失えば、日本はジリ貧になるしかない。まさに国家としての将来に影響を及ぼすほどの危機なのです。

濱田 「世界の潮流と逆行する結論」「大学の弱体化が国力基盤の劣化を招く」という言葉は、私たちの危機感の表れです。

松本 学長同士が、あんなに一致団結したのも珍しいかもしれません(笑)。先進国も発展途上国も、危機の



濱田純一 (京大総長)

松本正博 (京大総長)

時代を生き抜くために学術研究がカギを握っているとよくわかって予算をつぎ込んでいます。キーワードはサバイバビリテイ、つまり生き抜くことです。日本にはその危機感が欠如していません。

濱田 大学の予算を削られそうになったから文句を言っているわけではない。教育や科学技術に対する予算は、国の未来への投資です。そうした息の長い投資は、国として見識をもって行う必要があります。

将来についてのヴィジョンが明確に示されたうえで、しばらくは財源が厳しいので我慢してほしいという理屈なら理解できる部分もありますが、とにかく今、無款があれば削るというだけの発想はおかしい。そもそも「無款」を判断する基準がはっきりしません。学術研究は、今の世の中の十年、二十年、あるいはもっと先を見据えたテーマを扱っています。そしてその最先端は、毎日の積み重ね、長い年月をかけて研究の継続性によって生み出されて

の科学技術の継続性を断ちきりかねない。あえて言うなら、国はそれまで彼らに対して行ってきた投資を無款にするわけです。

研究者がいなくなれば、日本の研究界にぽっかりと穴が開いてしまします。埋める人材を育てるには、また一から時間とお金をかけなければなりませんから、一定期間、研究の発展はストップせざるを得ない。そうなれば、海外にも追い抜かれるでしょう。

このままでは、日本から学問に対するリスクペクトや期待感までもが失われてしまうと不安に思っています。

濱田 同感です。すでに国立大学の予算は年間一割ずつ減らされ、OEC Dの中でも最低水準にまで落ち込んでいます。最近、海外の学長さんたちに会うと、「今が日本を追い越すチャンスだよ」と、情けない冗談を言っています。

松本 もともと日本の科学技術に対する国の投資は、世界的に見て低すぎます。そのために、世界のトップの座

いることを理解してほしいですね。

松本 資源がない日本は、言ってみれば坂道を駆け落ちしようとしている石を、新たな科学技術を生み出し続けることによって、科学者たちが額に汗して支えている状態ですから、一瞬でも手を緩めれば、石は一気に坂を転がり落ちてしまいます。そうならないように、国が大きなヴィジョンを持って、研究をバックアップすることが必要不可欠です。

今回の予算削減は、科学者の国を支える力を弱めることにほかなりません。短いスパンではなく、十年、二十年が経った時に日本社会にボディブローのように効いてくると思います。

濱田 研究は、ある程度のタイムスパンを経て効果をあげるものですが、一度継続性が断たれてしまうと遅れを取り戻すのに数倍の時間がかかりますね。これは研究の内容もそうですし、研究者もそうです。

先日行われたアンケートでは、東大の理科系で研究者を志望する学生の八

から転落した科学技術は、これまでも数多くあります。圧倒的なシェアを誇っていた太陽電池は、今では中国が一位で、ドイツが二位。日本は三位に後退しました。ドイツは太陽光で発電した電力を政府が破格の固定価格で買ったので、企業が大きく成長して一気にシェアを拡大した。

電気自動車に利用されるリチウム電池も、今は世界一の技術を持っていますが、ドイツは「国家電気自動車計画」として開発するメーカーに多額の補助金を出すと決定しました。他の国々も力を入れています。日本がナンバーワンの座を奪われる日は遠くないでしょう。

京都大学の山中(伸弥)教授が発見した万能細胞(iPS細胞)は、ノーベル賞級の業績です。しかし国から京大に充てられた予算はたった十億円程度にすぎません。アメリカでは複数の大学が数千億円という予算をiPS細胞の研究につき込んで、次々に新しい発見をしています。

割以上が、予算が縮減されたら研究者をあきらめるか海外に行くことを考えると答えていたそうです。

このままでは日本は衰退する

松本 三分の一の予算削減と仕分けされた「グローバルCOEプログラム」などは、若手研究者を支えるよい例です。日本の大学院の教育研究機能を強化し、世界をリードする創造的な人材育成を図るための制度で、一件あたり年間五千万円から三億円を、原則として五年間支援するものです。

プログラムの資金の多くは、研究所などで若手の研究者を雇用するために使われています。予算が削減されれば、こつこつと十年以上地道な努力を重ねて勉強し、夢を抱いて博士号を得て研究の世界に羽ばたこうとする優秀な研究者の卵達に、「生計は立ちません」と宣告することになる。研究をあきらめて違う職業に就く人や、外国に行く人も出てくるでしょう。日本

濱田 事業仕分けの場で、「世界のナンバーワン」である必要があるのか、という質問も出ましたね。研究におけるナンバーワンの意義は、研究の現場にいないと、確かになかなか理解されにくい。

松本 最初からナンバーワンを狙って研究する人などいません。ナンバーワンを狙うからこそ、世界のトップから少しだけ前に出ることができると。そこがわかってもらえない。

濱田 「時間はかかるけれど、方向性は間違っていないから進めよう」と

判断して、支えていくための、国としての大きなヴィジョンが必要ですね。ただ事業仕分けそのものは、予算を考えるきっかけを作った点で意味があったと思います。今後は我々からも、大学が社会にどのような役割を果たしているのか、あるべき姿をもっと積極的に社会に伝えていかなければなりません。

今の学生は「伸びきったゴム」

松本 国民にも、まだまだ「大丈夫だ」と思っている能天気な人も多いと感じます。これは豊かな生活しか見てこなかった環境がまだ続いている、「豊かボケ」だと思います。長い間世界のナンバーワンであり続けたので、個人資産が多いことも理由の一つかもしれません。日本の平均貯蓄額は一千万円以上と聞きました。うちなんて、三百万円しかありません（笑）。日本のGDPは、ここ数年ほとんど

伸びていませんね。こんな国は世界でも日本と北朝鮮くらいです。世界の他の国が成長を続けている中で、横ばいですから、つまりは後退している。私は患苦しさを感ずります。

濱田 今の時代は、どうも先が見えないですね。学生が「閉塞感のある時代だ」と言っているのを聞いて、ドキッとしたことがあります。

戦後の日本は、将来は必ず今よりよくなるという「右肩上がりの神話」に囚われ、「失われた十年」など多少の落ち込みがあっても、みんなが明るい未来を信じていました。ところが今はその神話が崩れて、人々の生活の基盤が大きく揺らぎ始め、誰もが漠とした不安を感じているように思います。

個人資産が多くても、社会の資産、いわば社会のストックは少ないのではないですか。いわゆる箱もの行政や道路などに予算を重点的に分配した結果、社会ストックが不足し、たとえ個人資産が二千万円あっても、高齢にな

ってから生きていくのにその金額で十分なのかわからない。生活を支える社会的なストックが見えないので、若者から高齢層までが不安感を抱いてしまっているように思います。

松本 その不安感が、学生にも広がっていると思いますね。大学のキャンパスを歩いていて、元氣やなと思っパツと振り返ると、聞こえてくるのは中国語なんです（笑）。日本人はあまり群れないし、大声で話しながら歩いたりもしない。落ち着いて見えるのは豊かさの表れである一方、心の中には不安感を象徴しているようにも感じます。実際、精神的な悩みを持つている学生は増加しています。校内でのカウンセリングも増えている。

濱田 東大でも、留学生が元氣がいいますね。

松本 今の学生は、たとえば「伸びきったゴム」。これ以上伸びる余地がない。残念ながら、学生の質は低下しています。

濱田 ある受験勉強のパターンに入れば、比較的スムーズに大学という最終ゴールにたどりつく一方で、パターンから外れて生きることが難しい時代ですね。東大や京大に入学してきているのは、失敗をしたことがない学生が多いので、チャレンジや逸脱を良しとする冒険主義の学生が少なくなっています。

私が学生の頃は、もっと多様性があったと思います。おとなしい学生もいれば話々しい学生もいたけれど、どちらが「あるべき型」という見方はなかった。今は「あるべき型」の中にいけない、就職できないという強迫観念があつて、学生にとっても苦しい時代かもしれないですね。

松本 落ちこぼれることを何より怖がる、「落ちこぼれ恐怖症」の学生が増えている気がします。先生がおっしゃるように、我々の大学に合格してくる学生は、小さい頃から中学校、高校

とレールの上を走って来ていますから、自然とチャレンジ精神が失われてしまうでしょう。レールから外れるとダメだと思込んでいるので、コンサバな言動に終始してしまふ。たまに授業をのぞくと、おとなしくノートを取りながら、真面目に聞いている学生ばかりです。

私なんか授業に出たことなかったけどねえ（笑）。教師がこんなこと言うたら、なんやけど。なにしろ学生時代に講義に出たら、先生が教卓の上に横になって、「お前らなあ、授業なんか出てくるやつはだめなんや」と言われたこともあるくらいですから。

濱田 それはすごい（笑）。でも私も、授業にはあまり出ていなかったですね。その代わり、デモに行ったり本をよく読みました。

松本 これだけ不安感に満ちた世の中で生き残っていくためには、詰め込んだ知識だけでは不十分です。そうした学生のサバイビリティを育てるた

めにどうするべきか、大学としてもきちんと考えていかななくてはいけません。

タフさとアンラーニングが鍵

濱田 私は四月に行われた学部学生の入学式で、「タフな京大生になってもらいたい」と話しました。タフさといっても多様で、例えば一人でじっくり、長時間かけて同じ文献に取り組むのもタフさですし、研究をするうえで肉体的なタフさも大切です。

タフさの基盤になる人間的な力や人格は、他人との社会的なコミュニケーション力によって養われます。一人では自分の力を鍛える事はできませんから。

松本 なるほど。私は「アンラーニング」(反学習)を重視しています。パターンに沿って高い偏差値の京大大学に入ってきた学生は、入学試験に合格するため、多くの知識をめいっばい

詰め込んできています。それを一度リセットしてもらうのです。落ちこぼれ恐怖症の学生にとっては恐ろしい一歩かもしれないが、アンラーニングしなければ、新しい知識を入れて先に進めない。例えば科学の世界でその分野のトップを目指すような研究をするためには、受験で覚えたテクニクや偏差値の高さだけでは役には立ちませんから。

私が考えるいい学生とは、どんな場面に直面してもやっていける人間です。そのために人の痛みやいい部分を感じ取る能力や、たとえ熟成してなくても「本で読んだ」「聞いたことがある」など多くの引き出しを持つことが大切です。

その引き出しが教養なのです。まず入試までの偏差値教育を一旦消し去って、学部ではしっかり教養を身につけて、学部ではいけないところが京大は、大学改革をして教養課程をなくしてしまっただけですね。これは大失敗でした。東大が残したのは英断です。

と書いていました。今とは受験のシステムや考え方がまったく違います。

濱田先生、今東大の入試を受けたら受かりますか。

濱田 間違いなく無理です(笑)。

松本 私も絶対通らへんと思いますね。

よく企業の方に、今の学生は型どおりでつまらない、大学で個性を伸ばす教育をしてほしいなど言われますが、私から見ると、現在の受験システムに乗ってきた学生は、大学に入学した時にすでに個性を失っています。

ですから大学に入ってきた学生のアンラーニングを進める一方で、社会のシステムそのものも変えなければ、大学に入ってくる学生の質は変えられません。

現在のように大学というゴールに向かって、幼稚園から延々と塾でトレーニングして言うのは異常です。今は、大学入試にある科目ばかり重点的に勉強して、そのほかの科目は落着かない程度に勉強すればいいと考えられてい

濱田 当時、東大の学内でもかなり議論されたようですが、よく残したと思います。私も教養こそがタフな学生の下地になると考えています。最近には、教養のカリキュラムの幅を広げるとともに、討議力の育成や英文ライティング教育にも力を入れています。

松本 今西錦司さんや桑原武夫さんなどに代表されるように、京都には伝統的に多様な分野の研究者が自分の研究を発表したり、議論して楽しむという習慣が根強くありました。今も理系や文系関係なく、居酒屋などに集まっては、狭い机を囲んでいろいろ話しています。私は「総長をいじめる会」と呼んでるんやけどね(笑)。

でも、おもしろいですよ。私の専門は宇宙ですが、文系の先生から、想像もつかないような質問が出てきますから、こちらも刺激を受けて新しいアイデアが浮かんできたりする。専門分野ばかり見ていては、時代を生き抜くサバイビリティは言えないと実感します。

る。音楽や体育を入試に入れるということではありませんが、個人的には、多様な科目で長年積み重ねた努力を、入試制度でも評価してあげたい。日本のトップ大学の入試を変えれば、システムそのものも変わっていくはずですね。

濱田 入学試験は、東大でもなるべく早く考える必要のある問題だと思っています。まだ具体的なイメージはできていないのですが、多様な学生を受け入れるために、大学がある程度のリスクを覚悟することも必要だと思っています。

他方で、学生にも自分で努力しなければ卒業できないというリスクを負ってもらおう。東大が提供する優れた教育環境を生かせずに落ちこぼれたら、それは自己責任だということですね。

それから、国際化の意識を学生のうちから育てたい。私は学部学生のうちに海外の大学で過ごす時期を何とか作れないかと思っています。異文化と接することで、世界で自分がどういう位

濱田 居酒屋談義でも、教養は身につく。図書館で本を読むばかりが勉強ではありませんから。

入試を変えれば社会が変わる

松本 奈良出身の私にとって、東京はそもそもえらい遠い場所でした。新幹線もなかったもので、行くだけで十時間以上もかかる。

高校の先生に「東京にいい大学があるから行け」と言われても、そんな遠いところ行けますかいね、というのが本音でした。

濱田 そんな遠くもないですよ。そうか、先生と私の世代の間に東海道新幹線ができたんですね。私は明石出身ですが、東京は近かった(笑)。

松本 当時は、京大に入って、ちょっと変わった先生に何か教わり、ある程度エリートとしての保証も受けて社会に出ようと思う学生が、がんばって勉強して入学してきた。予備校もありませんから、私は落ちたら就職しよう

置にいるのかという国際的な視座が生まれ、多様な価値や考え方に対処できる力が育つからです。

今年四月に大学院に入学した五千名の学生のうち、留学生は約五百名。一割以上を占めています。アジアからの学生が多いですが、日本人学生にもいい影響を与えています。大学内で留学生と過ごす機会を増やすだけでも、大きな意味があると思いますね。これもタフな学生を作る一環です。

松本 先日中国の清華大学の先生に会ったら、学部で、百二十ものコース

を英語で教えていると話してしました。経済や物理などの授業を、英語で行っているというんです。

濱田 それはすごい。私も学生のみならず、大学そのものを徹底的に国際化したいと考えています。ただそれは日本の良さや日本語を捨てて英語ばかり取り入れるのではなく、国際社会に開かれた国際水準の大学を作ることです。

今のように日本人教員と日本人学生がほとんどという環境でも、高いレベルの研究ができています。ですから、世界のトップの研究者や学生が東大に加わってくれたら、さらにレベルが上がります。世界から、「東大で研究したい」と研究者や学生が集まる大学にしていきたいのです。ランキングで低く評価された外国人教員数などは、そうした国際化に伴う結果であって、自己目的ではありません。

松本 国際化という点では、京大は大きく後れを取っています。がんばら

ないかと、口酸っぱくいつていますが、なかなか進みません。大学内の看板に外国語表記がほとんどないという言語的な遅れもありますが(笑)、自分の学問が世界でどう位置づけられるのかという国際的な意識が不足しています。

理工系や医学分野では、研究にほとんど困境がなく、ライバルは世界中にいるため、国際化に対する理解も自然と深まる。ところが人文社会科学になると、研究内容が固有の文化と結びつき、特定の言語で行われることが多いので、なかなか世界の同じ土俵で評価できませんね。そこに安住せずに、国際化についても議論してほしいと、学内では言っています。

先生も法学部の出身で、文科系ですね。

濱田 ええ、純粹文科系です(笑)。私は自分の研究経験を通じて、私ら日本人独特のものの見方を世界に向けて発信することで、アイデアの交流がで

きると感じています。

ドイツの法制を勉強していた頃、ドイツ人にとっては当たり前概念でも、私たち外国人の目から見ると理解できないことも多かった。理解するためにあらゆる方向から研究をしました。すると逆に、私たちの発表を聞いたドイツ人が、そんな視点があったのかと驚くのです。

東大でも文系は理系に比べて国際化が遅れていますが、国際的な研究交流はすでに随分やっていますので、その成果を国際発信や教育面で展開していくつもりです。

松本 英文学を日本でやる意味は何か、逆に欧米で日本文化をやる意味は何か。それぞれに興味があると研究者が意識することが、学問の国際化ですね。

### 切磋琢磨で社会を引っ張る

松本 六年前に大学が法人化され、

松本 そうした地の利も生かしながら、今後も東大と切磋琢磨していききたいです。

濱田 そういえば先日、役員同士で卓球対決をしましたね。残念ながら、私は松本先生の足下にも及びませんでした。可愛がっていたら(笑)。

松本 いやいや、濱田先生との対決に備えて、前日に脱水症状で倒れるまで大学の体育館で学生相手に特訓したんです。その甲斐あって、翌日は勝利を取める事ができました。

濱田 負けるのも当然かな(笑)。でも、減多にない機会でもおもしろかったですよ。

松本 肩ひじ張らないコミュニケーションも必要ですね。ぜひ今度、飲みながら関西弁でいろいろ話しましょう。

濱田 確かに私も、関西弁で話している時の方が頭が柔らかくなっているように感じますから、不思議です。楽しみにしています。

いう人も大勢いる。東大から、京大のようななちよっと変わった人材が出てくるとおもしろいでしょうね。

濱田 そうですね。東大は東京にあるので、良くも悪くも世の中の動きを素早く捉えて、小回りが利く(笑)。行政に近いこともあって、今の動きに敏感になりますね。それに比べると、京大はややクールに物事を見ているように感じます。

松本 京大は、京都という古都に居続けた資産があり、地域からも大きなサポートを受けています。京都市は十一年に一人が学生で、地域のサポートも大きいと感じます。

東大の名前は誰でも知っています。が、銀座で「東京大学」と言ってもツケはきかないでしょう？(笑) 祇園やったら、「京都大学」でまだツケがきくところあるんですよ。学費を大事にする雰囲気が残っている。

濱田 羨ましい。そこはとも違うようですね。

各大学が様々な取り組みを始めました。京大はひねくれもの。ですから、当時の部局長会議で「京大はなるべく何も変えないでいこう」と決められました。さすがに最近では、変えるべき部分を変えていこうという動きが出てきました。

しかし似たような大学ばかり増えてはおもしろくない。京都ならではの、特色を生かした大学づくりを進めたいと思っています。

濱田 東大と京大などのように、同じくらいの力を持った大学が、それぞれ独自のカラーを出しながらさらに競い合う状態が望ましいですね。日本全体の学問の力を引き上げていくことにつながるはずですよ。

松本 東大を見ていると、若干「不易流行」の流行に敏感な人が多く、すべての点で常にトップでなければならぬという意識が強い印象がありますね。京大は道を行き、自分の分野ではトップだけれど他のことは苦手と